

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(●)				
4 研修機能の向上	(現状) ○とちぎ農業未来塾の就農準備基礎研修及び専門研修ともに受講者は定員を下回っている。(基礎研修39/80名、専門研修32/60名)  ○とちぎ農業ビジネススクールの受講者を確保するために、毎年苦労している。  ○H30の未来塾基礎研修受講者に対する研修内容評価アンケートで、講義が分かりやすいと回答している受講者は94%であった。  ○H30の未来塾専門研修受講者の就農率は70%であった。  (課題) ●未来塾、ビジネススクールともに、安定的に受講者を確保する必要がある。  ●受講者の就農率を高めることが必要である。	分かりやすい講義(アンケート結果)  満足度 80%(32名)  専門研修の修了生農業従事率 80%(26名)	(1)教育スキルの向上  ○教員研修会の開催(再掲) ・新任教職員を対象として、外来講師の授業見学を実施する。(6月)  ・「授業の持ち方、指導方法」等に関する意見交換会を開催する。(6月)  ○指導者研修会への参加 ・指導力強化発展研修会等に参加し、職員の研修指導力の向上を図る(8月、1月)。研修終了後、伝達講習会を実施する。 ・職員による検討会を行い、指導方法のスキルアップ、育成の方向性について認識の共有化を図る。(毎月1回)	(1)教育スキルの向上  ○教員研修会の開催(再掲) ・6/7宇都宮大学准教授「植物生理」の講義を授業見学(3名)  ・6/11指導方法研修会(指導方法事例発表、意見交換)を実施(6名)  ○指導者研修会への参加 ・10/10指導力強化発展研修会に参加(1名)、11/12校内関係者への伝達講習会にて情報共有 ・毎週1回、チーム内の打ち合わせを実施、育成の状況や指導内容について、情報や意識を共有	A (33名/32名 =103.1%)  A (27名/26名 =103.8%)	(1)教育スキルの向上  ○教員研修会の開催(再掲) ・新任教職員は早期に授業の仕組み等の把握が必要なので、4月前半に教育計画書及びシラバスの説明を行う。  ○指導者研修会への参加	
		(2)研修体制・内容の充実  ○未来塾における指導体制の検討・実施 ・研修体制の充実に向け、ほ場や作物の共同利用、共同作業など、本科野菜担当と連携して行う。  ○未来塾における実習内容の充実 ・先進農家と連携(オープンファーム等の活用)し、未来塾にない作物(アスパラ等)の現地研修を実施する。(6月、12月)  ・研修の理解度や研修成果を把握するため、各作物の栽培・収支計画と連動した研修作業日誌(履歴・感想)記帳を実施する。(4～3月) ・スマートフォンを利用したICT機器のデータの見方を学習し栽培に活用する。(7～3月)  ・マーケティングと経営能力向上のため、ポップや容器について学習し、併せて販売実習を行う。(10～2月)  ・研修生に対するアンケート調査を実施する。(未来塾:1、3月、ビジネススクール:開催の都度)	(2)研修体制・内容の充実  ○未来塾における指導体制の検討・実施 ・夏季休暇中の日曜日当番について、本科野菜担当と連携(5回) ・たまねぎの機械について本科農業経営担当と共同利用(4回)  ○未来塾における実習内容の充実 ・7/3、7/20、7/29、8/24、9/19、11/27、1/27、2/5先進農家及びオープンファームと連携した研修を実施 ・現地研修後も、研修生からアスパラ栽培の実施要望が多いため、次年度から研修対応できるよう、播種・収穫の研修を実施(毎回)し、理解度向上を図るとともに、新しい試みとしてライン(写真機能など)を活用 ・8/9本科と連携し、次世代型トマトハウスの環境制御技術を研修に活用 ・ハウス内の温度管理にスマートフォンを利用した機器で研修を実施 ・ポップや容器についての研修を踏まえ、農大祭での販売実習(1回)及び県内直売所での販売状況調査(2回)を行い、結果を情報共有  ・未来塾生を対象に、基礎コース現地研修内容検討(9月)、両コースの研修効果と満足度の把握(1月、3月)アンケートを実施 研修満足度84.6% ・6月からビジネススクールを開講し、研修効果と満足度を高めるため毎回アンケートを実施(18回) 研修満足度98.8%(2月下旬17回時点)	※評価基準 A: 90%以上 B: 70%以上 90%未満 C: 50%以上 70%未満 D: 50%未満	(2)研修体制・内容の充実  ○未来塾における指導体制の検討・実施  ・より実践性を高める研修内容にすることが課題であるため、専門コースⅡの指導体制等内容の改善を行う。  ○未来塾における実習内容の充実  ・露地野菜の機械化一貫体系の研修が、農大施設単独ではできなかったが、次世代型園芸人材育成施設が整備されたので活用していく。		

令和元(2019)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)				
			(3)円滑な就農のための支援 ○県・市町・農業団体との連携 ・研修開始前と終了後、研修中に2回、計4回の面談を行い就農計画の作成・実現の支援を行うと共に、農地確保については研修実施中からマッチングを行えるよう、関係機関で情報を共有する。(4回、4～3月)	(3)円滑な就農のための支援 ○県・市町・農業団体との連携 ・研修開始前、研修中に2回、研修終了後に就農計画について、面談を実施、各農業振興事務所と情報共有		(3)円滑な就農のための支援 ○県・市町・農業団体との連携 ・農地及び宅地の確保が就農希望者の課題となっているため、研修実施中からのマッチングを行えるよう、関係機関との連携を強化する。	・中間管理機構の利用について、有効な連携方法を検討してほしい。 ・資本装備が必要な分野(畜産等)への非農家等の新規参入者に対する支援に取り組むことを検討してほしい。
			(4)効果的な周知・広報活動による受講生の確保 ○未来塾対象者への説明会等による理解促進 ・現役研修生との交流や実習体験等の未来塾体験見学会を実施し、入塾希望者へ理解促進を図る。(8月、11月) ・「就農相談会inとちぎ」において、就農相談と合わせた塾の説明、PRを実施する。(6回) ・未来塾の効果的な周知を図るため、応募に向けた説明会を開催する。(12月) ○県機関・市町・農業団体との連携 ・募集告知にあたり、市町・JA広報誌に掲載しやすいよう、掲載ひな形を提示しながら依頼する。(11～12月) ・ビジネススクール受講者の確保のため、農振事務所と連携し、受講候補者のリストアップと経営能力向上への意識啓発を行う。(5月)  ○研修内容の積極的な発信 ・HPを活用し、研修内容等を随時掲載する。	(4)効果的な周知・広報活動による受講生の確保 ○未来塾対象者への説明会等による理解促進 ・8/10、未来塾体験見学会を実施し16名が参加 ・11/9、第2回目を実施し20名が参加 ・5/26、7/28、9/29、11/24、2/2、3/1就農コーディネーターが「就農相談会inとちぎ」で未来塾の説明、PRを実施 ・12/7、未来塾説明会を開催し19名が参加 ○県機関・市町・農業団体との連携 ・11/中旬～12/中旬にかけて、募集周知と併せて各広報誌等へ掲載ひな形を提示し掲載依頼 ・研修候補者の掘り起こしについて各農振と連携して取り組み13名を確保 ・6月からビジネススクールを開講し、研修効果と満足度を高めるため毎回アンケートを実施(再掲)  ○研修内容の積極的な発信 ・研修認知度を高めるため、毎回の研修状況をホームページに掲載(18回)		(4)効果的な周知・広報活動による受講生の確保 ○未来塾対象者への説明会等による理解促進 ・認知度向上のためには継続した活動が必要のため、引き続き理解促進のための見学会及び説明会を実施する。 ・入塾後のミスマッチを防ぐため、見学会及び説明会での個別相談の充実を図る。  ○県機関・市町・農業団体との連携  ・受講生の確保が課題であるので、アンケート結果の反映による研修魅力度の向上を図るとともに、各地区での研修対象者の早期のリストアップと農業法人構成員の受講を促進するなど、募集方法を改善していく。  ○研修内容の積極的な発信	・技術だけでなく、経営的な部分等全般を教育しているという、ビジネススクールの優れた点をもっとアピールしていくことが必要である。